

工事安全対策リスク評価表(例) <コミュニケーションツール>
 工事(作業)名称: 危険物屋外貯蔵タンク補修(火気)工事 工事期間(7~8月)

	気掛かり事項	原因・影響	対策前 リスク	具体的なリスク低減対策	対策後 リスク
1	火気使用時の火災	原因: 火気工事現場周囲に可燃性ガスの存在 影響: 火花が可燃物に着火、小火災の発生		・運転部門は作業前ガス検知を実施し、可燃性ガスが無いことを確認 ・底板取替部は切断前に穿孔を実施し、運転部門がガス検を実施し可燃性ガスがない事を確認 ・施工会社は火気工事着手前に周囲の可燃物を予め除去する ・施工会社は火花飛散対策養生(防火壁・防災シート)を実施する ・火気工事終了時には周囲に散水し、火種を残さないようにする	
2	タンク内作業時の酸欠	原因: 換気不十分のまま入槽する 影響: 作業員の酸欠		・運転部門及び施工会社は入槽前に酸欠測定を実施し酸素濃度が大気相当であることを確認する ・施工会社は朝昼の入槽前の他、休憩後の再開時に自主的に酸欠を測定し環境変化がない事を確認 ・施工会社は槽内火気工事時には換気装置を動作させ強制換気を実施	
3	電動工具での切れ・擦れ災害	原因: 電動工具(グラインダー等)使用中に手・指等を切る 影響: 作業員の受傷		・施工会社は始業前点検を実施し、定められた工具・安全具を装着しているか、作動に問題ないか確認 ・施工会社は安全な姿勢・動作で作業を実施する ・施工会社(監督)は作業者の工具の取扱い状況等の施工状況及び足場位置等の作業場所が適切かの確認を実施し、作業員への指導を行う	
4	足場設置解体時の墜落・落下災害	原因: 足場受け渡し時にバランスを崩す 影響: 作業員の墜落		・作業者は相互声掛けを行い、バランスの良い姿勢で作業を実施 ・作業者は「ハーネス又は安全帯(2丁掛け)」を確実に使用して作業を実施 ・作業者は手渡しで物の上げ下げを行う際には、双方必ず声を出して合図を行って作業を実施	
5	高所作業時の墜落災害	原因: 保護具の不適切な使用 影響: 作業員の墜落		・高所作業者は高所作業中は確実に「ハーネス又は安全帯」を着用し、フックを掛ける。フックを掛ける場所がない場合は、事前に親綱を設置する ・転倒の原因となるような物は都度整理する	
6	クレーン作業時の落下衝突災害	原因: 吊物の落下 影響: 落下物に作業員が当たり受傷		・作業半径及び吊り荷の荷重に合ったクレーンを選定する ・クレーンでの吊り作業時に吊物の下に人が入らない対策(拡声器等での注意喚起、周囲の縄張) ・タンク吊時には本体吊治具の健全性を事前に目視確認。また周囲道路の通行禁止を実施 ・玉掛け者とクレーンオペレーターとが相互声掛けで作業を実施(コミュニケーションの徹底) ・吊物を確実に固縛する	
7	熱中症の発生	原因: 気温の上昇 影響: 作業員の熱中症発症		・作業者は現場にて適時水分・塩分を補給できるように飲料・塩分を準備する ・施工会社(監督)は作業員の体調チェック及び声掛け確認を行い、体調不良者に作業をさせない	
8	作業中の地震発生による災害	原因: 自然現象 影響: 作業員の墜落		・地震発生時及び緊急地震速報発令時は直ちに作業を中止、運転部門の指示に従う	

工事安全対策リスク評価表(例)の作成方法

- ・工事に潜む「気がかり事項」を抽出後、原因・影響を明確にし、具体的なリスク低減対策を検討・記載する。
- ・リスクを定量的に表す指標として、リスクの大きさと発生確率からランク分けしリスクの視える化を行う。* 対策前のリスクを低減対策によって、対策後リスクに低減させる
- コミュニケーションツール活用目的
- ・工事管理フローの「5) 工事会議」に反映する
- ・非定常作業のリスク評価およびKYシートとして使用することも可能
- ・運転部門、工事監督部門および工事施工会社間のミーティング資料として使用することも可能